

南海トラフの巨大地震モデル検討会について

1. 趣旨

過去に南海トラフのプレート境界で発生した地震に係る科学的知見に基づく各種調査について防災の観点から幅広く整理・分析し、想定すべき最大クラスの対象地震の設定方針を検討することを目的として、理学・工学等の研究者から構成される検討会を政策統括官(防災)の下に設置

2. 論点

- 南海トラフで検討すべき「最大クラスの巨大な地震・津波」とはどのようなものか
- 想定震源域・波源域をどのように考えるべきか
- 東海・東南海・南海地震の同時発生、時間差発生についてどのように考えるべきか

3. 開催経過と今後のスケジュール

- 平成23年8月28日 第1回検討会
この間 月1~2回程度の頻度で開催
- 平成23年12月27日 第7回検討会
中間とりまとめ(想定震源域・波源域の設定の考え方等)
- 平成24年3月31日 **南海トラフの巨大地震による最大クラスの震度分布・津波高の推計結果 公表**
※10mメッシュ津波高、浸水域、液状化危険度、時間差発生、長周期地震動は引き続き検討

南海トラフの巨大地震モデル検討会 委員

(座長) 阿部 勝征 東京大学名誉教授

今村 文彦	東北大学大学院工学研究科附属災害防御研究センター教授
岡村 眞	高知大学大学院総合人間自然科学研究科教授
岡村 行信	(独)産業技術総合研究所活断層・地震研究センター長
金田 義行	(独)海洋研究開発機構プロジェクトリーダー
佐竹 健治	東京大学地震研究所教授
島崎 邦彦	東京大学名誉教授
橋本 学	京都大学防災研究所教授
平川 一臣	北海道大学大学院地球環境科学研究院教授
平原 和朗	京都大学大学院理学研究科教授
福和 伸夫	名古屋大学大学院環境学研究科教授
古村 孝志	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授
翠川 三郎	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
室崎 益輝	関西学院大学総合政策学部教授
山岡 耕春	名古屋大学大学院環境学研究科教授
山崎 文雄	千葉大学大学院工学研究科教授

全16名(50音順)